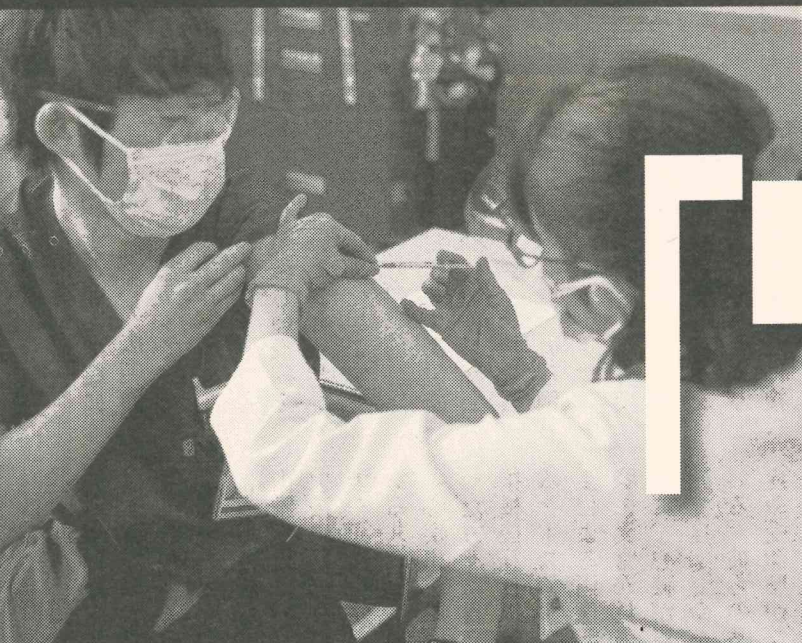


医師と看護師が警告する

現役

当初はワクチンを歓迎する医療従事者も多かった



自己免疫の暴走、サイトカインストームのイメージ



検案書にこう記した。
〈死因は肺動脈血栓塞栓症と心筋炎〉へワクチンとの因果関係あり
本誌は前号で、ワクチン接種後の「副反応疑い死」でかけがえのない肉親を亡くした複数の遺族の証言を報じ、大きな反響を得た。中には「作り話ではないか」といった心ない反応もあったが、今回の記事も含め、遺族や当事者への取材に基づいていることを改めて強調しておきたい。
今なお国は、ワクチンと「副反応疑い死」の因果関係を一件も認めてい

証言
スクープ
第2弾

「ワクチン死」の 凄絶な現場

厚生労働省はワクチンの副反応疑い死の人数を1966人に更新した。接種が原因で発症したとみられる異常な症状で命を落とす患者たち。経験したことのない事態に医師や看護師は声をあげ始めた。

ゼリーのような血栓

大阪医科薬科大学法医学教室の鈴木廣一名誉教授は、大阪府警から解剖を依頼された遺体にメスを入れ、思わず目を見張った。府内に住む61歳(当時)の男性、Aさんである。

心臓と肺をつなぐ太い動脈を切り離したときのことだった。血管から流れ出てきたのは、ドロリとした血の塊——血栓だ。男性の肺動脈には、コーヒゼリーのような赤茶色の血栓がびっしりと詰まっていた。
「明らかな肺動脈血栓塞栓症でした」(鈴木氏)
脚などでできた血栓が血流に乗って肺の血管内に集まり、塞いでしまう

疾患のことだ。

血栓は、そのほとんどが足首から膝にかけて走る静脈でできる。そのため鈴木氏はまず、左脚の静脈を調べた。だが、血栓はどこにも見当たらない。続けて右脚を調べると、静脈にぎっしりと血栓が詰まっていた。

おそらく死の直前、Aさんの両脚の血管には、どちらも血栓が生じていた。何かのきっかけで左脚の血栓がはがれ、肺動脈を塞いで、彼を死に至らしめたのだろう——。
解剖の結果、鈴木氏はそう推測した。
Aさんは21年8月5日、ファイザー社製ワクチンの接種を受けた。そ

れから5日後の8月10日、妻に胸の苦しさを訴え、接種を受けた医院に向かうと自転車に乗った直後、うめきながら倒れたという。救命救急センターに運ばれたがすでに心肺停止状態で、間もなく死亡が確認された。
実は、Aさんは7日の時点で家族に胸の違和感を訴えていた。

「その時、すでに脚の血管から小さな血栓がはがれ、肺の血管に詰まり始めていたと考えられます。そして自転車を漕いだ際、左脚の静脈の大きい血栓がはがれて一気に肺の動脈に流れ込み、塞栓状態になった。膝裏辺りの血管で生じる血栓は、直径1cm近くになることもあるのです」(鈴木氏)
Aさんは毎朝の散歩を日課にしており、大きな血栓が生じる可能性は低かった。原因として考えられるのは、ワクチンを接種したことだけだ。
鈴木氏はAさんの死亡

ない。その一方で、不審な死を遂げる人は後を絶たない。そうした現実には違和感と怒り、悲しみを抱いているのは遺族だけ

心筋の細胞が溶ける

前出の鈴木氏は、この2年でワクチン接種後に死亡した遺体の解剖を3例経験した。Aさんと同じく、血栓が原因で亡くなったと見られるのが72歳(当時)のB子さんだ。彼女は2回目のワクチン接種の3日後に死亡した。解剖の結果、明らかになった死因はやはり肺

ではない。現場で死にゆく人を目の当たりにする医師や看護師も同様だ。今回は、そうした医療者の肉声をお伝えしよう。

動脈血栓塞栓症だった。自宅で胸が苦しくなったBさんは、家族に支えられてトイレに連れて行ってもらった途中で倒れ、亡くなったという。
「解剖しても、当初は肺動脈に血栓は見当たらず、その他にも異常は見られませんでした。しかし肺を丁寧に観察する

「異常な血栓」
「溶けた心臓」
「間質性肺炎」

と、気管支と並んで縦に走る肺の動脈の広範囲が、血栓で塞がっていたのです」（鈴木氏）

さらに心臓を調べると、血管が激しい炎症を起こしていたこともわかった。心筋炎を起こす寸前の状態でもあったのだ。

1月20日、厚生労働省は定例の副反応検討部会を開き、ワクチン接種後の「副反応疑い」の症例を更新した。オミクロン株対応型のワクチンでも、AさんやB子さんのように血栓症や心疾患を起こした人、それにより亡くなった人が新たに複数報告されている。

現在、国に届け出があった「副反応疑い」の死者は1966人。しかし、たとえ肉親がワクチン接種直後に亡くなったとしても、すべての遺族がその因果関係を疑うわけではない。診察する医師も気づかず、原因不明の突然死として片づけてしまう。つまり現在明るみに出

ている事例は、氷山の一角にすぎないのだ。

医療裁判を扱い、「副反応疑い死」の遺族救済にも取り組む弁護士の青山雅幸氏は、ワクチン接種後に死亡した人々の死因や死亡時期を調べて、ある共通点に気が付いた。「心疾患が原因で亡くなった方々に目立つのは、接種後5日以内に亡くなるケースです。解剖やAIによる画像診断では、特に異常が見当たらないのに、心臓が原因の突然死で自宅で命を落として

いる。彼らの多くは既往症や受診歴がなく、30代以下の人も目立ちます。健康だった若者が、心臓が止まって治療をする間もなく突然死するなんて、普通は考えづらい」

また女性の場合、接種直後に脳や内臓からの出血で亡くなるケースが多いとも青山氏は言う。脳溢血、くも膜下出血、肺からの出血などが少なからず報告されているのだ。

「コレステロールの薬の副作用で骨格筋が溶ける『横紋筋融解症』も目立ちます。同様に心臓の筋肉の細胞も急激に溶けることがあります。その結果、心筋梗塞や心不全、致死性の不整脈が生じて、突然死を招く人がいると考えられます」（長尾クリニック名誉院長の長尾和宏氏）

前述した厚労省が報告したワクチン接種後の死亡事例にも、この症状で亡くなったケースが複数記されている。

昨年11月20日に5回目

すさまじい高熱に襲われて

広島大学大学院医系科 学研究科の長尾正崇教授は、ワクチン接種後に死亡し、解剖を依頼された4人の症例をいち早く論文にまとめた。いずれも高熱を発して亡くなったおり、死因を調べるため血液の一部を解析するとサイトカインストーム、

広大な「免疫暴走」による死亡の可能性が考えられたという。《2回目のワクチン接種を受けてから1〜10日後に死亡した4例の解剖を経験。死亡時の体温は異常に高かったと推定された》《解熱剤を使用しても、接種後に40度を超え

の接種を受けた79歳女性は、3日後の23日に死亡した。死因は横紋筋融解症のほか、敗血症や多臓器不全も見られたという。12月5日に5回目接種を受けた79歳の女性も、翌日にやはり横紋筋融解症を起こして亡くなっている。記録によると接種直後から悪寒があり、未明に嘔吐して救急搬送されたが、同日正午に死亡した。

さらに医師たちが不審を抱いているのが、異常な高熱で亡くなる人が多発していることだ。

「すなわち「免疫暴走」による死亡の可能性が考えられたという。

《2回目のワクチン接種を受けてから1〜10日後に死亡した4例の解剖を経験。死亡時の体温は異常に高かったと推定された》《解熱剤を使用しても、接種後に40度を超え

るか診ないかという珍しい病気で。ワクチンが原因である可能性は、否定できません」

ギラン・バレー症候群は通常、すぐに死に至るほど進行の早い病気ではない。しかしワクチン接種から1ヵ月後、忠さんはスマホを操作することもできなくなった。やがて食べ物や飲み込みめなくなり、さらに1ヵ月後の10月2日、帰らぬ人となった。直接の死因は誤嚥性肺炎だった。

「100歳近い方でした。そこそこ元気に暮らしていましたが、それなのに、ワクチン接種翌日から体調が悪化し、ほとんど食事がとれなくなりました。急激に衰弱が進み、接種して3ヵ月後に亡くなりました。

通常の老衰の経過とはまったく違い、明らかにワクチン接種が契機になった老衰死でした」

医療者たちの証言が示すのは、ワクチンの「副



コロナによる死者だけでなく、「超過死亡」が増えていることを懸念する医師も多い

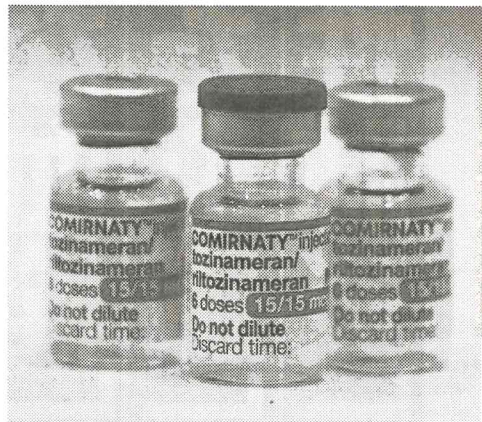
急激に老衰が進んで死亡

日本国民のワクチン接種率は全体で見ると、4回目、5回目と回を追うごとに低下している。それはワクチンのメリットとデメリットを勘案して自己判断を下す人が増えているからかもしれない。しかし、高齢になるほど接種率は高くなる。高齢者施設の入所者ともなれば、施設の手引きで練

り返し接種を受けている人が大半だ。その中には、免疫力や体力が落ちたのか、肺炎で亡くなる人が相次いでいるとの証言もある。高齢者施設で働く看護師の安藤涼子さん（40代・仮名）が明かす。「入所していた80代の男性が、ワクチン2回目の接種後に『呼吸ができません』と助けを求めてきた

「100歳近い方でした。そこそこ元気に暮らしていましたが、それなのに、ワクチン接種翌日から体調が悪化し、ほとんど食事がとれなくなりました。急激に衰弱が進み、接種して3ヵ月後に亡くなりました。通常の老衰の経過とはまったく違い、明らかにワクチン接種が契機になった老衰死でした」

大型企画満載 次号は2月8日(水曜日)発売です (一部地域は除く)



今や国民の8割がワクチンを2回接種しているというが……

～昭和・平成・令和～ 読めば時代がよみがえる。きっと心が熱くなる

作家、芸能人、政治家、経済人、スポーツ選手。
一線で活躍する著名人たちには、人生に裏打ちされた「ことば」がある。

- 「カネなんて、あの世に持っていけるものじゃないんだ」 **田中角栄**
- 「僕は勝った試合はあまり覚えていない」 **平尾誠二**
- 「オレ、100%の想いを」 **田中邦衛**
- 「80%ぐらいでいう人が好きだよ」 **日野原重明**
- 「規則や法律は破るためにある」 **立川談志**
- 「人間、未練で生きている」 **樹木希林**
- 「分相応の暮らしをするのがいちばん」 **石原裕次郎**
- 「俺が怒ったら終わりだから」 **白洲正子**
- 「ひとりで井戸を掘るように、好きなものに対して夢中になること」 **野村克也**
- 「誰かが嫌われ役をやらなといけけないんだ」 **西城秀樹**
- 「やってダメなら仕方がない。やらないよりははるかにマシだ」 **西城秀樹**
- 「明日はきっと良いことがあると思うから」 **阿佐田哲也**
- 「人生、9勝6敗でいいんだ」 **小出義雄**
- 「苦しいことをやるのだからこそ、楽しんで頑張ろう」 **上島竜兵**
- 「誕生日にひとりでいちゃいけないよ」 **草薙剛**
- 「人として成長することが、いちばんの役作りになる」 **谷啓**
- 「最悪なときにこそ、ウキウキすることが大切なんだ」 **山岡久乃**
- 「待っているだけでは成功できないよ」 **金子兜太**
- 「死とは、自分と他者とを分断するものではない」 **林真理子**
- 「世の中には出会うべくして出会う人もいる」 **蟹江敬三**
- 「頑張れよ、俺も頑張ってるから」

日めくり一日一語
あのひとの声が聞こえる

人生が変わる 365日の名言

自分で楽しむのはもちろん
大切なあの人へのプレゼントとしても
最適な一冊です。

KODANSHA
週刊現代編集部 [編]
定価：1980円(税込)
電子版も好評配信中

講談社BOOK倶楽部 <https://bookclub.kodansha.co.jp/>

「反応疑い死」として報告されている人以外に、必ずしも明確な症状や急変が伴わない死亡者も大勢いるということだ。

ワクチン問題に関心をもち「全国有志医師の会」で代表を務める、ほんべつ循環器内科クリニックの藤沢明徳理事長も言う。「私たちは定期的に副反応疑いの症例について情報交換をしています、特に高齢の患者さんで『前の晩まで元気だったのに、朝起きてこず、見に行くとうまくない』と、思ったら、その日のうちに亡くなった」といった報告が増えてきています。

一方、現役世代で心配なのは、急に命を落とすわけではなくとも、強い倦怠感や原因不明の体調不良に悩まされる人が出ているということ。これは仮説ですが、細胞内でエネルギーの生成を担っているミトコンドリアの働きに、ワクチンが何ら

かの影響を及ぼしている可能性がります。全身の細胞の「エネルギー生産工場」が機能不全になっているとすれば、倦怠感に襲われることにも説明がつけます」

統計によれば、コロナワクチンの後遺症に見舞われるのは約800人に1人。その数が少ないことをもって「副反応や後遺症のリスクは小さい」「気のせいではないか」という見方が現在の医療

「怖い」と言い遺した看護師

たとえば本誌が21年5月に報じた、福岡県の看護師・太田彩さん(享年26・仮名)。同年3月に初回接種を受けた太田さんは、4日後に亡くなった。両親がアパートの部屋に入ると、口から血を流して倒れていたという。父親は、彼女の葛藤をこう証言している。

「ワクチン接種後に血圧ができて死亡した方がい

界では一般的だ。それ以外のならぬ彼ら自身が、これまで率先してワクチン接種を受けてきたこととも無関係ではないだろう。「我々がコロナで倒れ、医療崩壊を招いてはならない」という、使命感の表れともいえる。

しかし中には、ワクチンに対して疑問を抱きながらも、その使命感から接種を受け、取り返しのつかない悲劇に襲われた事例もあるのだ。

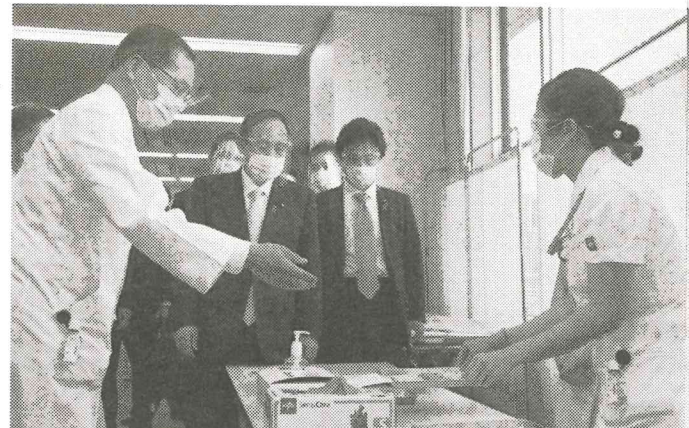
2年前、当時の菅義偉首相は治験のプロセスを省略し、半ば強制的に国民へのワクチン接種を進めた。病床が逼迫し、医療崩壊が目前に迫っていた当時、潜在的な危険性は無視された。

だが今では、相次ぐ過酷な副反応の実例を目の当たりにし、声を上げる医師も増えていく。

「コロナワクチンの副反応疑い死の割合は、人口当たりでインフルエンザワクチンの100倍を超えています。にもかかわらず、国は『見切り発車』で始めた接種をいつまで続けるつもりなのか。これほどのリスクが明らかになったのですから、こ

こでいったんストップし、安全性を見直して、必要ならば改良を加えてから接種するのが、真に科学的な態度ではないでしょうか」(前出・藤沢氏)

やむを得ない「緊急措置」として始めたワクチンの大規模接種を、きちんとした検証もままみならずと続けるべきなのか。なし崩しの状況を脱し、一度立ち止まって状況を確認することも必要ははずだ。



21年、ワクチン接種は菅前首相の決断で始まった

SEXYバニー共闘 豊田ルナ 小悪魔な白うさぎ

馬場咲希、櫻井心那、安田祐香、西村優菜
そして渋谷日向子の笑顔をもた見たい!

女子ゴルフ 強く美しき星たちの2023

小日向 ゆか 黒うさぎの天使

「どうする家康」では分からない 戦国武将の「どうするSEX」

注意! 緑内障も白内障も悪化して そのスマホであなたは失明します

コロナで大活躍 カロナールに怖い副作用

やりすぎ白鵬 「有望株独占」に大ブーイング

特別定価 550円

24 Weekly Gendai 2023 February

熱射スタジアム ドラマ 「もう誰も愛さない」を語る

現役医師の戦慄証言

「心臓が溶けた!」ワクチン死の凄絶

最新理論「死後の世界」の仕組みが判明

死んだらどうなる人はどこへ行くのか

あつと驚く意外な節約法を一挙紹介

電気代とガス代を劇的に下げる裏技53

1年で8万円!

脳内臓・関節・目・耳・歯を守る方法90

正しい選び方40

病院・医者への

100歳目指して 人生はまだ続く!

「世界五大長寿地」に学ぶ鉄則15

「老化しない家」の作り方20

誰でも30歳若返る

元気のチエツクリスト

305

対人関係のストレスの減らし方60

クスリで寿命を縮めない飲み方40

スクープ・ルポ2連発!

山口組 7代目は誰に…… 仁義なき戦い 「分裂抗争」の結末

女性から3000万円を詐取して 鬼畜すぎる農協職員の仕事

小池百合子さん パフォーマンス女帝

「少子化対策で5000円」ってどうなのさ

コロナ「5類」あなたはマスクを外しますか?

「シワ」と「シミ」を消すおとなの艶肌術